

[資料]

## グローバル社会における人材育成と教育的視座： 台北医学大学での短期研修を通して得た学び

大城真理子<sup>1)</sup>, 山口賢一<sup>1)</sup>

キーワード：グローバル社会、人材育成、教育的視座、台湾、短期研修

Key words: Global Society, Human Resource Development, Perspective of Education, Taiwan, Short-Term International Seminar Program

### I. はじめに

グローバル化が進む中、大学の学部教育において国際的な視野をもった人材の育成が求められている（文部科学省，2011）。また、世界規模で健康格差が拡大している状況下では、看護学分野においても、健康や看護に纏わる問題についての対策は、グローバルな視点で捉えていく時代であると言われている（南，2012）。

国際的な人材育成を目的とした大学における国際交流の推進にあたっては、教員や学生等の個人的なつながりが契機となる場合が多いが、加えて組織的な取り組みが必要であると先行研究で考察されている（野地ら，2016）。2016年より文部科学省が実施している「我が国の大学の国際化に関する現状」についての調査結果によると、我が国の大学が海外の大学と締結している大学間交流協定、そして我が国の大学が海外に設置している拠点の数は年々増加傾向にあることが明らかにされている（文部科学省，2022）。以上のことから、日本において、多くの大学がグローバル教育を拡充する姿勢を示していることが分かる。

このような流れを受けて、沖縄県立看護大学では、グローバル人材の育成に対応すべく、看護学の学術研究及び保健・医療・福祉教育の発展を目的に2001年からハワイ大学（カウアイ・コミュニティ・カレッジ）との学術交流を締結した。加えて、2011年から台北医学大学と国際交流に関する協定を締結し、学部学生、大学院生及び教職員の交流を促進している。具体的には、国際交流室運営委員会を設け、協定校と安定的に交流ができるように、毎年1回の海外研修や海外大学の視察を通して、継続的な国際化の推進に注力している。

しかし、先行研究でも指摘されているように、単科や小規模大学が多い看護系大学や大学院ではグローバル化を推進することは、語学力や業務多忙などの理由から困難が伴う（成瀬ら，2019）。単科大学である沖縄県立看護大学においても、グローバル人材の育成を目指して組織的に活動してはいるものの、世界に発信するための

教育・研究活動に結びつく国際化の推進には至っていない。そのような中、2023年3月に、学部学生および教員が台北医学大学での海外研修プログラムへの参加を通して、台湾のグローバル化の状況から、①グローバル人材の育成と国際交流の推進、②グローバル社会における文化の継承、③先端技術の活用とDX（Digital Transformation）の推進、の3つの側面から意義ある学びがあった。

よって、ここに台北医学大学での短期研修について報告し、研修を通して得られたグローバル社会における人材育成と教育的視座を考察することで、沖縄県立看護大学の今後の国際交流推進のための基礎資料とする。

### II. 研修概要と成果

1. **海外研修参加の目的**：沖縄県立看護大学の学生が、  
1) 国外の医療・看護事情を知り、より広い視野で物事を捉え、変化する国内外の動向に関心が持てるようになる、2) 異文化経験を通して、様々な文化背景にある対象を理解しようとする姿勢が養われる、3) 英語によるコミュニケーション力が向上する。
2. **研修期間**：2023年3月13日～3月24日（プログラム実施日は平日の10日間）
3. **研修先**：台湾（台北市）にある台北医学大学で研修を行った。台北医学大学は、1960年に設立された私立の大学で、6,000人を超える学生が在籍しており、11学部と1つの教育センター、6つの関連病院を有している。看護学部に関しては修士課程、博士後期課程を有しており、世界各国から留学生の受け入れも行っている（台北医学大学，2023）。
4. **研修参加者**：日本の5つの国公立大学から14人の看護学部の学生が研修に参加した。なお、沖縄県立看護大学からは、学生5人（1年次4人、2年次1人）と看護教員1人が引率教員として研修に参加した。
5. **研修内容**

研修プログラムは資料1の通りであった。なお、本論文への掲載に際して、台北医学大学より掲載の許諾は得ている。

1) 沖縄県立看護大学

## 1) 講義

本学学生を含む14人の研修参加者は、台北医学大学の教員による講義（各2時間）を10コマ全て受講した。講義テーマは「福祉工学とデザインに対する考え方」、「東洋医学についての考え方」、「国際災害看護：台湾の災害看護における枠組み」、「台湾における介護」、「加齢に関連したサルコペニア」、「台湾における在宅ケア」、「介護とリハビリテーション」、「台湾の公的保険医療制度」、「在宅環境のvirtual reality（以下、VR）」、「東洋文化における産前産後ケアに対する取り組み」に関するものであった。これらの講義内容は、台北医学大学看護学部が主に取り組んでいる研究課題であり、高齢社会と少子化に起因する看護・介護ケアに焦点が当てられていた。世界的に見ても台湾の合計特殊出生率は最低レベルにあり、少子高齢化が深刻な状況にある。その理由として、近年の台湾の若年層は結婚や出産を望まず、職業キャリア形成を重視する傾向が強いことに加えて、高齢者の寿命が延伸していることが挙げられる。そのため、台湾では高齢社会が深刻化し、その対応が急務となっており、台湾政府は国をあげて高齢者ケアを重点課題と位置づけ取り組んでいる。特に、台湾においては、テクノロジーを駆使した取り組みが目覚ましく、臨床実践の場では介護負担軽減のためにロボットの導入を目指しており、大学・病院との協働で研究開発が進められている。その他、学部の講義においても、台北医学大学の教員が開発したメタバースの教材でVRを活用し、ゴーグル（Head-Mount Display）を装着することで、実際の高齢者の在宅生活を仮想体験することができ、生活上のリスクについての学びを深めた。

一方で、台湾では医療の文化的・伝統的な要素が受け継がれており、東洋医学と西洋医学を融合させた医療提供体制が構築されている。具体的には、鍼灸や漢方なども公的な保険診療でカバーされており、特に女性特有の更年期症状などに活用されている。

なお、研修プログラムの全講義は、英語が共通語として用いられていた。教員の多くは、欧米や香港で博士号を取得した後に、台湾で教鞭を取っている。教員の1人は、海外で自身が受けた教育手法を台湾でも意識的に取り入れており、学生が自ら思考し発言するようなディスカッションを中心とした講義を実践していると話した。その他、多くの講義において、受講者のスマートフォンから専用サイトにアクセスするだけで簡単に利用できるリアルタイムアンケートサービスが活用されており、総じて、クラス内でのディスカッションを促す双方向的なコミュニケーション形式を採用したプログラムが中心であった。

## 2) キャンパスツアー

台北医学大学の図書館と学際的協働研究センターを中心に、学内の見学ツアーに参加した。図書館は4階建てで、カフェが併設されており、24時間利用できる87席

の自習室が設けられている。図書館には、約150,000冊の書籍と製本された雑誌が所蔵されており、電子ジャーナル約17,000、電子書籍90,000、電子データベース120が購読できる。すべての電子リソースには、いつでも、どこからでもアクセスが可能であり、利用者は、時間や場所を問わずに電子リソースを利用することが出来る（台北医学大学図書館、2023）。その他、図書館では、学生が多くの図書に触れることが出来るように、図書の貸出数に応じて学生がポイントを集めて、かばんやマグカップなどの景品と交換できるようなユニークな取り組みがされている。

学際的協働研究センターは、2018年に設立され、台北医学大学内の学際的なコミュニケーションとコラボレーションを促進する強力なプラットフォームである。領域を超えて学際的に活躍することの出来る人材育成を目指して、多様な学部の学生同士が領域を超えてディスカッションすることが出来るオープンスペースが設けられている。学際的協働研究センターは、学際的学習センター、イノベーション起業家教育センター、デジタルイニシアチブセンターから構成されており、情報、革新、相互性、学際性、国際性、イニシアティブをビジョンに掲げた取り組みがなされている（台北医学大学、2023）。

学際的学習センターには、創造性を高めるようなオフィスのデザイン、そして机や椅子を自由に組み合わせ、すぐに大小のカンファレンスが出来るような環境が整備されている。

イノベーション起業家教育センターには、学生の起業をサポートする専門事務員が常駐した事務所が設けられており、主に大学院生の研究から生まれたアイデアと起業を結びつける役割を担っている。なお、起業支援については台湾政府による助成金制度があり、指導教員が計画書作成の支援を行ない、起業のための予算申請をしている。起業後の成功の有無にかかわらず、起業を通して得られる経験から視野の広い人材育成を目指している。

デジタルイニシアチブセンターには、3Dプリンターが設置されており、様々な用途で活用されている。例えば、台湾では文化的背景から臓器が一部欠損して亡くなることはあまり良くないことだという考え方を有する者も少なくない。そこで、臓器ドナーに対して学生ボランティアが中心となり、3Dプリンターで欠損した臓器を作成し、遺族のもとに亡骸を還すといった遺族ケアなどに活用されている。

## 3) 施設見学

### (1) 医療機関

研修プログラムには、台北医学大学の関連病院である、3つの急性期総合病院（Taipei Medical University Hospital, Wan Fang Hospital, Shuang Ho Hospital）の見学が組み込まれていた。これらの施設では、外来の受付から診察時、診察費の支払い時まで幅広くIT技術が活用されており、待ち時間を大幅に短縮するなど、業

務の効率化がなされていた。また、各入院病棟でも、ナースステーションにおいて大型のタッチパネルモニターが設置されており、病棟内で共通認識すべき基本情報などが全てナースステーション内のモニターに表示されていた。患者の氏名、食事の種類や禁忌事項といった情報をモニターで表示することで、スタッフ間での情報共有がスムーズに行われており、IT技術の活用により、インシデントの予防においても一役買っているという。なお、このような患者の情報はナースステーションで一元管理されており、ルーム移動をすると病室ネームプレートも自動的に変更されるシステムになっている。さらに、COVID-19の患者の入退室に際して、ワンタッチで消毒・清掃が出来るようなシステムが個室毎に導入され、DXを推進することで、仕事の効率化に繋がっている。

一方で、病院の設計は自然の温もりを感じさせるデザインが取り入れられており、がん病棟では暖色系を中心とした色を用いる、というように院内の環境づくりにも配慮がなされていた。その他にも、病院の屋上では近隣住民のボランティアや長期で入院している患者により、花や野菜、ハーブといった植物が栽培されており、入院中に少しでも患者が自然を感じることでできるような環境づくりがなされていた。

なお、病院の管理においては、看護部長をはじめとする管理職者のほとんどが博士号を有しており、看護部長は米国で博士号を取得しているとのことであった。

研修に参加した学生は、このような台湾の医療サービスの状況を目の当たりにし、日本の医療サービスにおけるデジタル化・モバイル化の活用の必要性について考える機会を得ていた。

## (2) 国立防災科学技術センター

国立防災科学技術センターは、災害による被害を軽減するため、そして緊急事態への備えのための科学技術を災害管理に導入することを目的に台湾政府が設立した機関である(National Science and Technology Center for Disaster Reduction, 2023)。台湾は地震や台風といった大規模災害が頻発する地域であることから、防災を国家レベルの重点事項と位置づけている。当センターでは、降雨予測により水害のリスクをモデル化する研究を行っており、その研究結果を基に災害対策や避難指示といった災害マネジメントを実施している。例えば、LINEなどのテクノロジーを活用し、適宜、防災情報を市民に向けて配信するシステムを構築した実績がある。また、ペットがいる家庭での災害対策、ハンディキャップを有する者への避難方法の周知など、様々な場面を想定した防災対策について検証し、当事者と協働しながら、エビデンスに基づいた災害マネジメントを提案している。

研修に参加した学生は、国立防災科学技術センターの見学を通して、日本においても地震や豪雨による災害の発生リスクが大きいことも踏まえ、台湾の取り組みから

日本の防災についても再考する機会を得ていた。

## (3) 医学教育シミュレーションセンター

台北医学大学の学部教育の場、そして医療機関で働いている医師・看護師の現任教育の場として、シミュレーションセンターが活用されている。

シミュレーションセンターでは、2002年から米国ピッツバーグ大学のシミュレーション教育センターと学術協力を締結しており、共同研究で構築されたプログラムを活用しながら、緊急度・重症度の高い患者・家族への対応などのシミュレーションを中心に教育を行っている。

研修に参加した学生は、シミュレーションセンターの見学を通して、日本の大学でも同様のシミュレーションを活用した演習がなされているという共通点を見出すことで、特に、コロナ禍における国内外の教育手法の動向に関心を向けていた。

## (4) アシスティブ・テクノロジーセンター

アシスティブ・テクノロジーセンターは、福祉用具の展示と貸出などを統合的に運営している機関である。当センターは台北市の委託により設置され、作業療法士や理学療法士、ソーシャルワーカーといった福祉用具の専門知識を有する専門職を中心に運営されている(Taipei City Resource Portal of Assistive Technology, 2021)。

センター設立の背景には、高齢社会を背景とした高齢者の増加と、それに伴う福祉用具利用のニーズの高まりがある。センターでは、主に i) 福祉機器の評価と再評価、ii) 福祉用具の耐用年数を延ばすための福祉用具のメンテナンス、iii) 機器の貸与、iv) 使用済みデバイスの寄付の受付と再利用、を行っている。特に、アシスティブ・テクノロジーセンターの特徴として、インターネット技術を活用して台北市内の福祉用具の資源を一括管理することで、障害のある人々や社会資源をより効率的に利用できるようなシステムが構築されている。

研修に参加した学生は、アシスティブ・テクノロジーセンターの見学を通して、IT技術を活用したシステムで電動車椅子や介護福祉用具が一括管理されている様子を見学することで、台湾におけるDXの推進の状況を目の当たりにし、医療・介護におけるDXの活用について学びを深めていた。

## 4) 研修参加者によるプレゼンテーション

初日に、台北医学大学の研修に参加した日本の5つの大学の学生がそれぞれ10分間の大学紹介のプレゼンテーションをパワーポイントに写真や動画を用いてまとめ、英語で発表した。また、最終日も台湾での学びについて、パワーポイントに写真等を用いてまとめて各大学10分間のプレゼンテーションを英語で行った。各大学の学生は、共通して台湾のグローバル化と、特に高齢者ケアにおけるデジタル化の推進についての学びについて述べていた。また、日本の高齢率のデータを用いて日本と台湾の比較を行い、世界的な高齢社会の課題につい

でも言及しており、今回の研修参加を通して、国外の医療・看護事情を知り、より広い視野で物事を捉え、変化する国内外の動向に関心を持つきっかけを得ていた。

なお、台湾では、グローバル人材の育成を目指しており、特に、プレゼンテーション技術の向上と、ディスカッションを通して学びを深めることに重きを置いており、研修に参加した学生は、研修プログラム内での英語によるディスカッションを通して、人前で英語を話すことに慣れ、学生によっては、メモを見ずにプレゼンテーションを行う学生も散見した。以上のことから、研修への参加を通して、その目的の1つである「英語によるコミュニケーション力が向上する」を十分に達成したものと評価できる。

### 5) 人的交流

台北医学大学の学生がメンターとして、研修参加者のサポートを行う中で、日本と台湾の学生が双方の交流を深めた。台北医学大学の学生メンターは、1名の日本人学生に対して、1名の配置があり、研修プログラムがない土日や夕方に台湾の観光地を案内することで交流を深めていた。その他、有償ボランティア（時給1000円）1名の学生が研修プログラムの全スケジュールにおいて学生のサポートを行っていた。具体的には、翌日の待ち合わせ場所のアナウンスやプログラム参加の出欠確認などを行っていた。なお、ボランティア学生は、本研修を担当する台北医学大学の教員が募集を行い、リクルートされたとのことであった。日本からの研修参加学生らはボランティア学生との交流を通して、英語でのコミュニケーションの機会を得ることができ、英語によるコミュニケーション力が日々向上していた。

また、同行した教員も、台北医学大学の教員との交流の機会から、共同研究の可能性や教育方法を検討する機会についてディスカッションを行った。なお、台北医学大学は、このような国際交流の機会をきっかけにして、日本をはじめとした様々な国との国際共同研究を実施している。さらに、台北医学大学の教員の英語力の高さの理由として、日常的に海外の大学や研究機関との交流があるため、必然的に英語を話す機会が多いことが英語力の向上に繋がっていると台北医学大学の教員は話した。

## III. 考察

台北医学大学での研修プログラムに参加し、そこで得た学びを3つの視点から考察する。

### 1. グローバル人材の育成と国際交流の推進

2020年、台湾は、グローバル社会において、バイリンガル能力を持つ人材に対する需要が大幅に増加していることから、2030年を目標に台湾を中国語と英語のバイリンガル国家にする政策を打ち出しており、「台湾の労働力が世界とつながるのを支援する」「国際企業を台湾に誘致する」という2つの方向性を掲げている(National Development Council, 2021)。これらの背景

を踏まえ、台北医学大学においても、グローバル人材の育成を見据えた教育が強化されており、海外からの長期・短期留学生を積極的に受け入れていた。今回、台北医学大学での研修から、国際交流を通じた人的交流の推進は、グローバル人材の育成といった教育的効果のみならず、研究者同士の交流の機会にもなっており、国際共同研究の推進にも寄与することを経験として学ぶことができた。先行研究でも、国際交流の成果として、国際的視野の広がり、異文化理解、英語への関心やコミュニケーション能力の向上に寄与することが挙げられている(野地ら, 2016)。よって、沖縄県立看護大学においても、引き続き、国際交流を推進することは、グローバル人材の育成に寄与することに繋がるものと評価できる。また、安定的な国際交流の実施は、国際共同研究の推進にも繋がるものと考えられる。

### 2. グローバル社会における台湾文化の継承

今回の研修を通して、台湾の医療機関での3Dプリンターを活用した遺族ケアの取り組みや、東洋医学と西洋医学を融合させた医療提供体制が構築されている状況から、台湾ではグローバル社会において、文化と伝統が尊重されている状況があった。先行研究では、「グローバル化の中で、自分と異なる文化や歴史に立脚する人々との共存のため、自国の地域の伝統や文化の理解と尊重がこれからのグローバル社会で重要である」と示されており(国立大学法人山口大学大学院, 2014, p1)、まさに台湾では、地球規模の視野を持ちながら、地域の視点を持ち合わせたグローバルな視点で地域文化が継承されていた。近年、わが国の看護系大学においても、グローバル人材の育成を目指した教育の方向性について議論されつつある(吉沢ら, 2022)。沖縄県立看護大学においても、沖縄県の特徴である島嶼における課題を見据えつつ、沖縄県外・国外の島嶼地域の問題にも幅広く視野を広げ、新たな問題解決の糸口を見つけられる、グローバルな視点を有した人材の育成に取り組んでいるところである(沖縄県立看護大学, 2023)。

以上のことから、今回の台北医学大学での研修を通して、これからのグローバル社会において、グローバル(global)にもローカル(local)にも通じる「グローバル人材」を育成するという方向性が重要であることが改めて明確になった。

### 3. 先端技術の活用とDXの推進

台湾では、2016年から「デジタル国家、スマートアイランド」という方針を実現させるためにネットワークインフラ整備や、DXがもたらすイノベーションを通じて、民間企業の効率性向上と国際競争力の強化を図る取り組みを重視している。そして、現在、台湾は、科学技術とイノベーションに関する世界ランキングにおいて上位に位置している(田邊, 2022)。

今回の研修において、台湾では、DXが浸透している現状を目の当たりにした。具体的には、医療機関では、

IT を積極的に採用することで患者ケアの質と病院スタッフの生産性を向上させている。また、教育現場では、台北医学大学の教員が開発したメタバースの教材やVR、ゴーグル (Head-Mount Display) などの IT 機器を使用して実際の生活や体験に近い状況を創り、臨場感のある環境での教育がなされている。先行研究では、IT や遠隔授業などを活用し、学生が多様な文化から価値を学ぶことはグローバル社会において重要であることが言及されている (Ergin & Akin, 2017)。以上のことから、台湾の DX 推進の状況から日本においても、今後、教育・臨床現場での DX 活用や応用で新たな価値を創造することが重要であると考えられる。

今回の研修を通して、台湾では、グローバル社会においても、台湾文化を継承しつつ、先端技術の活用と DX の推進により経済的・文化的にグローバルな視点で発展をしていることが視座として得られた。

#### IV. まとめ

台北医学大学での短期研修を通して、今後の日本の未来において、グローバル人材の育成と国際交流の推進、グローバル社会における文化の継承、先端技術の活用と DX の推進が重要である可能性が示唆された。

これらの学びは、実際に現地の研修プログラムに参加し、台湾のひと・もの・環境に触れることで得られた学びである。研修参加者は、異文化経験を通して、台湾の医療・看護事情を知ること、国内外の動向に関心を持ち、研修プログラムへの参加により、英語によるコミュニケーション力が向上した。

以上のことから、10 日間の研修参加を通して、研修参加の目的を達成できたと評価できる。よって、今後も引き続き、大学の組織として、国際交流を推進することは意義があるものと考えられる。

**謝辞**：今回、研修を受け入れ下さった台北医学大学の関係者の皆様に心より感謝いたします。

**利益相反**：本研究における利益相反は存在しない。

**著者資格**：MO は研究の着想およびデザイン、論文執筆をおこなった。KY は研究プロセス全体への助言および原稿への示唆をおこなった。すべての著者は最終原稿を読み承認した。

#### 引用文献

- Ergin, E., Akin, B. (2017). Globalization and its reflections for health and nursing. *International Journal of Caring Sciences*, 10(1), 607-613.
- 国立大学法人千葉大学. (2022). グローバル. <https://www.chiba-u.ac.jp/global/index.html> (2023 年 3 月 31 日現在)
- 国立大学法人山口大学大学院. (2014). 教育におけるグ

ローバル化と伝統文化. 初版. 株式会社建帛社. 東京. 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 著者他. (2016). 10 年後を見据えたグローバル人材育成・国際交流の推進 コンテンツ報告書. 看護学教育における FD マザーマップの開発と大学間共同活用の推進, 平成 27 年度～28 年度 看護学教育 FD マザーマップ・コンテンツ開発, 看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター, 1 - 38.

南裕子. (2012). グローバル化のなかでの看護学のあり方, *日本看護科学会誌*, Vol. 32, No. 2, 77-78.

文部科学省. (2011). 産学連携によるグローバル人材育成推進会議. [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/shitu/sangaku/1301460.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shitu/sangaku/1301460.htm) (2023 年 3 月 31 日現在).

文部科学省. (2022). 我が国の大学の国際化に関する現状. [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/shitu/08052204/1417852\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shitu/08052204/1417852_00001.htm) (2023 年 3 月 31 日現在).

National Science and Technology Center for Disaster Reduction. (2023). <https://ncdr.nat.gov.tw/>. (2023 年 3 月 31 日現在).

National Development Council. (2021). [https://www.ndc.gov.tw/en/Content\\_List.aspx?n=BF21AB4041BB5255&upn=9633B537E92778BB](https://www.ndc.gov.tw/en/Content_List.aspx?n=BF21AB4041BB5255&upn=9633B537E92778BB). (2023 年 3 月 31 日現在).

成瀬和子, 杉本敬子, 柳澤理子, 著者他. (2019). 日本の看護系大学院におけるグローバル化の現状. *日本看護科学会誌*, Vol. 39, p. 254-260. DOI:10.5630/jans.39.254

沖縄県立看護大学. (2023). <https://www.okinawa-nurs.ac.jp/daigaku/aisatsu/> (2023 年 5 月 30 日現在).

台北医学大学. (2023). <https://eng.tmu.edu.tw/#> (2023 年 3 月 31 日現在).

台北医学大学. (2023). College of Interdisciplinary Studies. <https://eng.tmu.edu.tw/Front/Academic/Icollege/Page.aspx?id=9MDH7z%2BLWlo=2023年5月30日現在>.

台北医学大学図書館. (2023). <https://library.tmu.edu.tw/Forms/Form0101/Form0101.aspx> (2023 年 5 月 30 日現在).

Taipei City Resource Portal of Assistive Technology. (2021). <https://tpap.tapei/app37/homepageEng/index>. (2023 年 3 月 31 日現在).

田邊康雄. (2022). 今後の DX (デジタルトランスフォーメーション) 実現課題 自治体と企業は何をなすべきか～もしピンクのマスクを配られたらあなたはどうか対応する～. *白梅学園大学・短期大学情報教育研究*, No. 25, 19-34.

吉沢豊予子, 西村ユミ, 太田喜久子, 神原咲子. (2022). -【鼎談】-地元と連携し新たな看護学の創成をめざす-看護系大学の役割と取り組み. *看護研究*, Vol. 55, No. 5, 450-460.

資料1

Program Schedule  
The Study Program for 2023 March Inbound Students at College of Nursing, TMU  
(2023/03/13-2023/03/24)

Week	Day	Time	Schedule	Location	Speaker(s) / Host(s)
Week One	3/13 (Mon)	10:00 12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Opening Remarks</li> <li>● Program Briefing by the Director</li> <li>● Introduction for College of Nursing at TMU &amp; Taipei Overview</li> <li>● Introduction for Inbound Universities (about 10 minutes by each group)</li> </ul>	Conference room, College of Nursing, CMB 13F 護理學院大會議室	Dean Kuei-Ru Chou 周桂如院長 Vice Dean Min-Huey Chung 鍾明惠副院長 Vice Dean Hsiu-Ting Tsai 蔡秀婷副院長
		12:00 13:30	Welcome Lunch	CMB 13F Lobby 護理學院大廳	Director Kee-Hsin Chen 陳可欣主任 Prof. Huei-Ling Chiu 邱惠鈴老師 Prof. Shu-Chun Lee 李淑君老師 Prof. Chun-De Liao 廖峻德老師 Prof. Yu-Huei Lin 林玉惠老師 Prof. Fu-Chih Lai 賴甫誌老師 Prof. Yu-Lin Wu 吳宥霖老師
		14:00 16:00	<b>Assemble at 13:50 - CMB 13F Lobby</b> Campus Tour 14:00-14:50 Library Tour 15:00-16:00 History Gallery	CMB 2F Library 圖書館 CMB (Front Building) 1F History Gallery 校史室	
	3/14 (Tue)	10:00 12:00	Lecture: Gerontechnology and Design Thinking	Hu, Shui-Wang International Conference Hall, CMB 16F) 胡水旺國際會議廳	Prof. Dorothy Bai 白若希老師
		14:00 16:00	<b>Assemble at 13:30 - CMB 13F Lobby</b> Wan Fang Hospital Tour	WFH 萬芳醫院	Director Doresses Liu 劉淑芬主任 Vice Director Mei-Jung Wu 吳美蓉副主任
	3/15 (Wed)	10:00 11:30	<b>Assemble at 09:30 - CMB 13F Lobby</b> Visitation the Rehabilitation Department: Lecture, Extracorporeal Shock Wave Therapy, Mirror Therapy	Department of Rehabilitation, SHH 雙和復健醫學部	Prof. Chun-De Liao 廖峻德老師
		12:30 14:30	Shuang Ho Hospital Tour	SHH 雙和醫院	Director Hsiu-Ju Jen 任秀如主任 Vice Director Shu-Fen Chen 陳淑芬副主任
	3/16 (Thu)	10:00 12:00	Lecture: Introduction to Chinese Medicine & Visit Chinese Medicine Clinic	Hu, Shui-Wang International Conference Hall, CMB 16F)	Dr. Wan-Ling Lin 林琬翎醫師
		15:00 17:00	Lecture: Global Disaster Nursing ~Taiwan's disaster framework	胡水旺國際會議廳	Prof. Fu-Chih Lai 賴甫誌老師
	3/17 (Fri)	10:30 12:00	<b>Assemble at 10:00 - CMB 13F Lobby</b> Visiting the National Science and Technology Center for Disaster Reduction (NCDR)	National Science and Technology Center for Disaster Reduction (NCDR) 國家災害防救科技中心	Prof. Fu-Chih Lai 賴甫誌老師
		14:00 16:00	<b>Assemble at 13:50 - TMU Daan Campus 1F</b> Visiting the Center for Education in Medical Simulation	Center for Education in Medical Simulation, 8F, TMU Daan Campus 大安校區醫學模擬教育中心	Dr. Pei-Xing Xie 謝沛興醫師

Week	Day	Time	Schedule	Location	Speaker(s) / Host(s)	
Week Two	3/20 (Mon)	10:00 12:00	Lecture: Long-Term Care in Taiwan	Hu, Shui-Wang International Conference Hall, CMB 16F) 胡水旺國際會議廳	Dr. Yen-Ben Kao 高燕彬醫師	
		14:00 16:00	Lecture: Age-Associated Sarcopenia		Prof. Shu-Chun Lee 李淑君老師	
	3/21 (Tue)	10:00 12:00	Lecture: Introduction to Home Care in Taiwan	Hu, Shui-Wang International Conference Hall, CMB 16F 胡水旺國際會議廳	Prof. Yu-Lin Wu 吳宥霖老師	
		14:00 16:00	Lecture: Technological Application Transforms Clinical Rehabilitation and Improves Exercise		Prof. Po-Yin Chen 陳博因老師	
	3/22 (Thu)	10:00 12:00	Lecture: Universal Health Insurance - Lessons Learn from Taiwan	Cheng-Pu Conference Hall, CMB (Front Building) 4F 誠樸廳	Dr. Tzay-Jinn Chen 陳再晉醫師	
		14:00 16:00	Lecture: Virtual Reality Home Environment	Xing-Chun Building 1F VR LAB	Prof. Li-Fong Lin 林立峯老師	
	3/23 (Thu)	10:00 12:00	Assemble at 9:30 - CMB 13F Lobby Visiting the Assistive Technology Center	New Taipei City Assistive Technology Resources Center 新北市輔具資源新店中心	Prof. Li-Fong Lin 林立峯老師	
		14:00 16:00	Lecture: Introduction to Doing-The-Month for Postpartum Mothers in Chinese Culture	Hu, Shui-Wang International Conference Hall, CMB 16F 胡水旺國際會議廳	Prof. Evelyn Lin 林淑玲老師	
				Free Activity		
	3/24 (Fri)	15:00 17:00	Final Presentation and Evaluation (about 10 minutes by each group)	Conference room, College of Nursing, CMB 13F 護理學院大會議室	Dean Pei-Shan Tsai 蔡佩珊院長 Vice Dean Min-Huey Chung 鍾明惠副院長 Vice Dean Hsiu-Ting Tsai 蔡秀 副院長 Director Kee-Hsin Chen 陳可欣主任 Prof. Huei-Ling Chiu 邱惠鈴老師 Prof. Shu-Chun Lee 李淑君老師 Prof. Chun-De Liao 廖峻德老師 Prof. Yu-Huei Lin 林玉惠老師 Prof. Fu-Chih Lai 賴甫誌老師 Prof. Yu-Lin Wu 吳宥霖老師	

TMU=Taipei Medical University      CMB=Comprehensive Medical Building (Rear Building)  
WFH=Wan Fang Hospital              SHH=Shuang Ho Hospital

**Reminder**

※ Assemble point is the Lobby, College of Nursing at 13F, CMB.

1. **Pre-departure:** Please confirm your flight and accommodation information with us as soon as possible.
2. **Briefing:** Students will need to give a 10-minute introduction of their colleges/universities in English. (Please send us the presentation slides before/when you arrive at TMU).
3. **Closing Presentation:** Students are requested to give a group presentation as evaluation of the program. Topics may include: nursing education, practicum experience, healthcare system, university life, etc.
4. **Because 3/14 and 3/15 will be arranged to visit the hospital, a negative result of the rapid test within 24 hours should be presented.**

